

## 会 議 録

□全部記録    ■要点記録

<b>1 会議名</b>	第1回姫路市国際化推進プラン検討懇話会
<b>2 開催日時</b>	令和3年9月2日（木曜日） 10時00分～12時00分
<b>3 開催場所</b>	イーグレひめじ4階 第1会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	<p>（出席者）姫路市国際化推進プラン検討懇話会 委員10名（欠席者なし）</p> <p>（事務局）観光スポーツ局長（欠席）、観光文化部長、文化国際課長、国際交流センター館長、 人権教育課長 他7名</p>
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	1人
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 座長及び副座長の選出</li> <li>2 懇話会の目的及びプラン改定の考え方</li> <li>3 姫路市の現状について</li> <li>4 現行プラン実施状況</li> </ol>

事務局	<p>1 開 会(10:00)</p> <p>2 委員の紹介</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 座長及び副座長の選任</p> <p>(2) 懇話会の目的及びプラン改定の考え方</p>
事務局	<p>【資料3（プラン改定の考え方）に基づき説明】</p>
座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料3の「2 基本理念及び基本目標」において、「令和3年まで」、「令和4年以降（案）」となっているが、議論によって事務局の原案を変えることも可能か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本理念に変更がない範囲で、より多文化共生社会に沿う形になるのであれば可能である。</li> </ul>
座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近はかなり状況が変わってきている。姫路市の難民の人の話を聞くと、今までとは違う問題を抱えていると感じる。今までは子どもの教育の話をよく聞いていたが、最近は帰化の問題を聞くことが多く、書類の翻訳を頼まれることもある。</li> <li>ようやく姫路市に夜間中学校ができるようになるなど、新しい動きが出てきているため、前回と同じような文言だけでなく、多少新しい文言を追加したほうが新鮮ではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本理念の考え方を維持しながらの軽微な文言修正であれば可能である。</li> </ul>
座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の改定では、SDGsの理念に沿った形にするということだが、今のところ反映できていないように思う。</li> <li>難民の人や外国人の子どものニーズがかなり変わってきていることを感じる。兵庫県「ひょうご多文化共生社会推進指針」でも、私は委員として「今までと同じではいけない。県独自のものが必要である」という意見を述べてきた。</li> <li>今回アンケートも実施しているため、その結果を反映したものになりたい。文言の修正や「このような視点を入れたほうがよい」などのご意見をいただきたいと思うが、どうか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論して検討を行い、可能な限り反映できるようにしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、外国人を取り巻く環境は急激に変わっている。社会の動きを見ても、今までの世の中とはかなり違ってきている。特に人口減少社会の中で、外国人とのコミュニケーションが大切で、しっかり受け入れていく役割が高まっている。</li> <li>・基本目標は「多文化共生の意識づくり」や「外国人が暮らしやすい環境づくり、「国際交流を通じた魅力あふれるまちづくり」と、大切なことは記載されているが、今まで取り組んできた文言のみで、これから先のことが盛り込まれていない。そのような視点が必要である。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生に取り組む人材の育成は、日本人の子どもたちにも進めなければならない。今は海外に行けない状況のため、どのようにすれば人材づくりができるかである。インターネットの活用や Zoom でも交流はできる。コロナ禍はまだ続きそうなので、そのような工夫も入れながら、どのように国際交流を進めるかという視点も入れられればと思う。</li> <li>・このプランは伝統的な考え方という印象を受ける。姫路市独自のもの、最新のものを入れたほうがよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先走るが、資料5の5ページ「施策の方針等」に「外国人市民が安心して生活できるように」とあるが、そもそも姫路市国際化推進プランは誰に対するプランなのかが分かりにくい。姫路市国際化推進プランは、基本目標で対象が変わるものなのか、それとも1つの理念のもとにあるものなのか。外国人市民は、生活するうえではまだ圧倒的にマイノリティで、民主主義の投票制度の中で意見を反映させることは難しい。そのため、特別にこのようなプランで対応するというものなのか。そうではなく、「国際交流を通じた魅力あふれるまちづくり」とあるが、人種に関係なく姫路市民のまちづくりプランの一環という汎用性の高いものなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在住外国人など多様なマイノリティの方々がおられる中、現在言われているのは、外国人が暮らしやすい環境づくりを徹底して行わなければならないということである。このプランが最終的に目指す方針は、外国人やマイノリティの方々に関係なく姫路市民として、共に地域づくりをしていくことである。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流を強力に推進し、日本の子どもたちが感受性が高い時期に姉妹城や姉妹都市と交流することで、最終的にそれぞれの成長に影響を与えるものになる。さらに、今後グローバル化の意味をとらえて、皆がもっと多文化共生に進んでいくのではと思う。</li> <li>・そのようなこともざっくりと記載しており、それぞれを「ここは在住外国人」と焦点を絞ったものにするのは難しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいことは分かる。すべて同時進行しなければならず、1つが欠けてもできない</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その通りである。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標3が「まちづくり」となっているため、多文化共生や国際推進と離れているように思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標3の中で観光に関する方針については、観光課で別途観光戦略プランを策定している。ここに参加いただいている皆様には、基本目標3の、主に「(4)国際交流・協力の推進」についてご意見をいただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5の4ページ 基本目標2の「在住外国人の生活基盤の整備」の、「多文化共生に取り組むリーダーの育成と活用」について。私が知っている限りであるが、これまでは難民の方が多く、ベトナム人たちが取り組みをする度に、そのグループの中で誰かがリーダーとなっていた。しかし、その方々が高齢となり、何かをしようとしても次の世代に後継者となるリーダーがいない。今後は、例えば、日本の中で防災のリーダーなどを育成できればよいと思う。</li> <li>・最近では外国人が多く、ネットで多言語の情報発信がされているが、リーダーがいてそこから発信できればよいと思う。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細な内容については、後ほど議論したい。</li> </ul>
事務局	<p>(3) 姫路市の現状について</p> <p>【資料4-1（市民アンケート調査結果）、資料4-2（姫路市在住の外国</p>

	<p>人市民の現状)、資料4—3(現行プラン策定後5年間の動向)に基づき説明】</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4—1の2ページの年代を見ると、日本人の5割近くが60歳以上と多い。一方、13ページの外国人の調査結果では、20～29歳が約6割である。これは10年以上前からそれほど変わっていない。相変わらず課題が根深いことを確認する資料であればそれでよいが、発言の偏りという点でも、この時点で意識改革が必要である。</li> <li>・姫路生まれで姫路育ちの60歳と30歳が共生するだけでも難しい。課題は同じである。急にがけ崩れが発生したときに取り残されないよう助け合おう、日頃から会話をしよう、お互いの健康状態に留意しようなどとやっているが、働き方改革で定年後の人などが同じ職場にいるだけでもトラブルを抱えることがある。そのようなノウハウをもって、国際化にあたっていくというような発想が大事である。あまり国際化として特別視するのではなく、まちづくりの基本指針が改めて大事だと思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットを絞っているわけではなく、18歳以上の市民から無作為抽出しており、結果的に60歳以上の回答が多くなっている。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それを聞いて改めて、なぜ、まちづくりで多文化共生が必要かというところになると思った。根底は、労働力人口が減少していることにある。日本国内の労働力人口はどの市町でも減少しており、それを補う解決方法として今の政権が打ち出しているのがデジタル化と外国人人材の活用である。そのため、外国人人材は若い世代がいなければならない。ここも60歳以上だとどうにもならない。</li> <li>・しかし、このことを話の起点にすると、人権意識などの問題があるにも関わらず、費用対効果や利便性、効率性などの話になってしまう。それは別としなければならない。地方自治体のことなので税金と切り離すのは難しいと思うが、このようなプランを立案するところでは整理する必要がある。本当の意味での共生が問われる。</li> </ul>
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4—1の37ページで「アンケートから見える課題」の説明があったが、これと、次のプランが呼応する形にしたほうがよい。基本目標毎にどのような状況だったかが分かれば、さらに次につながりやすい。私もアンケート作りに関わっていたのだが、「令和3年度までの基本目標に対する結果がこのように出ている」という整理</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>の仕方であれば、もっと次につながり、そこから「令和4年はこうする」という議論になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは難民の人が多かったが、労働力を担うという役割もあって外国人が姫路市に住んでおり、同じベトナム人でも今は技能実習が多くなっている。かなり傾向が変わってきている。多国籍化も進んでいる。</li> <li>・姫路市は、外国人の増加傾向と多国籍化という点がオリジナリティのある部分なので、従来のものを踏襲したものではなく、この点も盛り込んで、姫路市独自のプランを作るのがよい。私は現場の人とよく話すが、今の行政のプランと、現場の人が抱えている悩みは、かなり乖離している。このアンケート結果からもだが、現状もうまく反映できればよいと思う。</li> <li>・アンケート結果を見て、日本人にも課題があることがよく分かった。</li> <li>・外国人へのアンケートは、「市内の日本語教室、企業、大学等に依頼し、外国人市民へのアンケート回答を協力依頼した」とあるように、悉皆ではなく、顔の見えている人が前提であることを意識したほうがよい。</li> <li>・私は同じような外国人へのアンケートに関わったが、労働力として日本に入ってきてほとんど周囲との繋がりのない外国人が実は多いことがわかった。その地域は大阪の中でも国際交流を積極的に行っているところだが、そのようなところでも、地域の誰ともつながっていない外国人は多い。姫路市でも、そのような顔の見えていない外国人への視点が大事ではないか。</li> <li>・また、子どもにとって不安定な在留資格が増えている。労働力として外国人が入ってくるため、今後、家族滞在の子どもが増えることが目に見えており、安定した在留資格をもたない外国人が増える可能性は高い。</li> </ul>
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のアンケートで抽出された外国人は、何かしらのサポートを受けている人なので、このアンケートを受け取ることが出来ている。このアンケートに回答できる人は、いわゆる「取り残されていない」人である。私は取り残されている人たちと対話することが多いが、その人たちはこのアンケートを見たことがないという。この点は今後の課題である。取り残されている人がどのように思っているかを拾い上げていきたい。</li> <li>・それがSDGsの「誰ひとり取り残さない」とも関連する。外国人の子どもや難民、技</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>能実習生などの取り残されている人、格差があつて大変な思いをしている人の意見を吸い上げるようなアンケートが、今後はできればよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人はあまりにも知らないことが多い。韓国人と朝鮮人のことを皆様がどのように思っているか分からないが、私は日本に生まれ、最初は日本語学校に通い、途中で民族学校に入り民族教育を受けた。今は市民講座で韓国語講師を頼まれて講座を行っている。そこで学ぶ子どもたちには国際的な人材になれるように育成し、高齢者には姫路市の韓国語ガイドができる人材に育てている。</li> <li>・私は差別の中で育ってきたが、差別で泣いたことはなく、負けないという気持ちで生きてきた。差別の中でも頑張つて、日本人に恥ずかしくないようにと育ってきた。</li> <li>・多くの人は「民族学校は、北朝鮮のような教育をしている」と言うが、そのようなことはない。しかし、ほとんどの人はそう思っている。ではなぜ民族学校を続けているかという、子どもたちに言葉を教えるためである。</li> <li>・私が日本国籍に変えないのは、親を捨てることになるからである。親のことは大好きで、尊敬している。だから、私はずっと韓国人で生きていきたい。</li> <li>・適正な手続きをすれば日本国籍は取得できるが、取得したくない人もいる。私の孫が日本人と韓国人のどちらの国籍を選ぶかは分からないが、それは自分で決めることである。</li> <li>・姫路市がどのようにすれば外国人が住みやすくなるかだが、それは人間皆にとって同じである。親であり、子どもである。日本人が住みやすいところは外国人も住みやすい。</li> <li>・私たちが困るのは、日本の手続きは書類が多いことである。何かしようと思つても、すべて書類の前でくじけてしまう。姫路城のガイドブックを作成する際にも何十枚もの書類を渡された。その書類を書くことは大変苦痛だった。多くの人に助けられたのでできたが、書類が多く大変だった。多くの外国人も書類の前でくじけていると思う。外国人も、日本に住んでいる私のような人も、書類作成に苦労しているため、もっと書類を簡潔にしていきたい。</li> </ul> <p>(4) 現行プラン実施状況</p>
<p>事務局</p>	<p>【資料5（現行プラン実施状況） 基本目標1に基づき説明】</p>

座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の子ども教育の課題は多様化している。受け入れ体制に関しては、進学やキャリア教育、キャリア支援の問題にスイッチしている。母語の話が出ていないが、母語をどのように維持するかも大事である。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前は、ベトナム人は生活するだけで精一杯で、母語を教えることができなかった。一方、違うルーツで来る人は、自分の子どもに母語を教えることを大切にしている。それは、日本語もベトナム語もできれば、将来的に仕事の選択肢が多くなるからである。自分たちは子どもに母語を教えることができなかったが、今日本に来ている人たちの中には家庭内では母語で話す人が増えている。その理由と聞くと、「今はベトナムにも日本の企業が多く、ベトナム語で働く可能性があるため母語を維持したい」ということだった。</li> <li>・また、ベトナム人の母親が日本語を勉強しても日常会話くらいしか話せないため、日本語では自分が言いたいことをうまく伝えられない。子どもが母語を使えないと、子どもも親にうまく伝えられず途中で会話が終わってしまう。親も子どもも互いを理解できないままになってしまう。そのため、親は母語を大事にしている。</li> <li>・今までの母親は難民が多く、自分の生活で精一杯で教育を十分することができなかったが、今は余裕があるため、母親が子どもの教育に熱心になっている。子どもに関して今まで知らなかったことに興味をもてるようになり、競争心もわいてきている。母親同士で情報交換をして、子どもを塾に行かせたり、日本語教室や補習教育を探したりしている。小学校に行く前から子どもを塾に行かせている人が多い。私も約20年間教育に関わる中で、子どもの教育に対する考え方が変わってきていると感じる。今後は母語教育も必要である。</li> </ul>
座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム人の技能実習生が増えているが、ベトナム人の子どもが母語を話せるようになれば、ベトナム人の技能実習生をサポートする人材として育成することもできる。姫路市で、貴重な人材をうまく育成できればよいと思う。現在、母語教育を行っていないため、せっかく技能実習生が増えているにも関わらず、サポートできていない。外国人同士でうまくサポートできような体制も考えていきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3の「2 基本理念及び基本目標」のうち、「②多文化共生の場づくりと情報発信」で、「場づくり」は新しく加えられるものだが、具体的にどのようなイメー</li> </ul>



<p>座 長</p>	<p>ジカ。資料5の3ページに、「国際交流センターにおいて多文化共生の場づくりを提供し」とあるが。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私も国際交流に関わる仕事をしているが、イーグレひめじのイベント等に来られる人は、元々国際交流に関心の高い人である。ここでイベントを多く開催しても、全体には広がらない。</li> <li>・地域交流事業という名目で地域に出て行って公民館で行うと、国際交流に関心がない人も来られる。国際問題に触れて緊張感が走ったこともある。意識啓発のやり方も考えたほうがよい。</li> <li>・元々年代の差もあり日本人と外国人の意識の差がある中で、共生するということがある。外国人に限らずだが、私の住んでいる自治会では、1戸建てに住むベトナム人が増えている。10年前は1戸建てに住むベトナム人の軒数は0軒だったが、今は約20軒ある。しかし、地域の中の交流はできていない。私の兄が自治会の会長をしており、引っ越して来た人にごみのことなど自治会の決まり事の説明に行くが、日本語が分からない方もいる。分からないままこちらの話を伝えて資料を渡して帰ったり、子どもがいるときに通訳してもらう形である。言葉が分からないため自治会活動が負担になり、班長もできないため自治会を抜けさせてほしいと言われることもあった。</li> <li>・いろいろなことをやっても、実際に地域に住んでいる人は、うまく交流できていない。交流がないため、住民とぶつかることもないが、災害が発生した際にどうするかという懸念がある。</li> </ul> <p>・場づくりとして、一時的なものではなく、地域の人と永続的な交流ができればよいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;"><b>【資料5（現行プラン実施状況） 基本目標2に基づき説明】</b></p>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「外国人が暮らしやすい環境づくり」と言うと、外国人にも様々な人がいるため線引きが困難である。次期に向けて新しく出てきた「多文化共生」というキーワードがあるため、「多文化由来の人たちが暮らしやすい」などにしてはどうか。生まれも育ちも日本という方もおられるため、線引きは難しい。そのようなことがアンケート結果にも出てきていて興味深い。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4の36ページの「差別・偏見に関するもの」に、「子どもは日本で生まれたのに外国人だとよく注意されるので非常に困っている」という自由記述がある。そのようなことを気にしなければならないことも、そのようなことを指摘することもよくない。暮らしやすい環境づくりはケースバイケースで、「誰ひとり取り残さない」のためには、ある程度カテゴライズすることが必要だが、日本人、外国人という分け方ではなく同じフラットな権利であることが大事である。日本人は日本に住んでいるので住みやすいのは当たり前という発想では、このような場づくりは難しい。</li> <li>・私は姫路市に久しぶりに帰ってきて、ごみ袋に多数の言語が記載されていることに驚いた。姫路市がこのようなまちになったことはすごいことである。これだけ多くの言語を記載しなければごみ出しができないまちになったことは、いろいろな意味で驚きだった。そのようなことが環境づくり、場づくりになるのではと思う。</li> <li>・この是非を議論するのではなく、国際化推進プランが目指す方向はどこなのかを決めておく必要がある。ある種どちらも必要だと思う。極端に言うと、犯罪者の人権をどうするかという問題も、まだ日本社会の中に残っている。先ほどご意見があった書類で挫折するというのは、日本人も同じである。マイナンバーカード作成に関する書類や新型コロナワクチンの予約についてもそうである。国はこれもデジタルで補うと簡単に言っているが、お年寄りには中々厳しいものである。</li> <li>・外国人の中でも、定住者と来訪者は、区別しなければならない。自分でお金を払って観光に来た人に行うサービスと、住んでいて困っている人へのサービスは同質で語るべきものではない。目的も異なる。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明のあった実施状況について教えていただきたい。私は5年前に現行プランを作った際にも参加させていただいたが、この5年間で何ができて何ができなかったかが、この実施状況では分かりにくい。実施したメニューや課題は記載されているものの、それがどの程度実施され、十分なのか不十分なのかがこれでは分からない。</li> <li>・本日これだけの方々が集まって議論を行っており、次の5年間に結び付けなければならない。この5年間でどうだったかをきちんとチェックすることが必要である。</li> </ul>
座 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査結果だけではエビデンスとして弱いため、ご指摘のように、「何ができたか」など実施状況があれば、次のステップに入りやすくなる。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その中で、「ここが足りない」というところを、次期で強化することが必要である。</li> <li>・未来志向で、「こうなるだろう」と考えることも必要だが、「今どうなのか」ということをもっと詳細に見たい。</li> </ul>
事務局	<p style="text-align: center;"><b>【資料5（現行プラン実施状況） 基本目標3に基づき説明】</b></p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念は2つあるという理解でよいか。「多文化共生社会の実現」と「国際交流の推進」は似通っている部分もあるが、項目として分けて読むということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化の中には多文化共生と国際交流の両方がある。姫路市としては、姫路市国際化推進プランとしている。国際化の中には、多文化共生と、海外姉妹都市や外国の方々との交流の両方を含んでおり、姫路市としては、姫路市国際化推進プランの中で、両方とも謳う形で取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光については別のプランがあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光については、現在姫路市観光戦略推進会議で全体的な観光の計画を策定しており、その中で、インバウンドも含めて海外からの人の呼び込みなどの具体的な政策を謳う。</li> <li>・姫路市国際化推進プランでは、海外から来られた人との触れ合いが必要であることや、インバウンドなどで姫路市民が身近に外国人と触れ合うことができるなどの意識面を示したいと考えている。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化推進プランで観光が入っていることに違和感がある。観光について別途プランがあるのであれば、入れなくてもよいのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化推進プランでは、観光というより、観光やイベントで来られる外国人との触れ合いも必要ではないかということである。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはどこにあたるのか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標3の「⑧多角的な国際交流・協力の推進」である。従来は、友好都市や姉妹都市との交流、青少年交流事業等を行っていたが、それだけでなくイベント関係で姫路市に来られる外国人など、様々な形で触れ合いの場や外国を身近に感じられる場を作ることが必要ということである。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>了解した。</li> <li>「(4) 国際交流・協力の推進」について、ご意見はないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で全く海外に行けていない。今後変わっていくものの1つにICTがあり、リモートでの取り組みも必要となる。来られた人への交流などの取り組みも必要だが、来られる前に姫路市の魅力を知ってもらうことも必要である。魅力を知っていただき、「姫路市に行ってみよう」、「姫路市はよいな」と思ってもらえるような取り組みも今後は必要である。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを駆使した交流は現在も行っていると思うが、コロナ禍の収束にはまだ時間がかかりそうなので、さらに必要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標2に戻るが、外国人技能実習生についてである。外国人技能実習の日本語教育に関しては、企業はほとんど責任をもっていない。技能実習生任せで「好きなところに行ってください」という傾向にある。企業側にも日本語教育のサポートをお願いしたい。</li> <li>昨年の外国人技能実習生へのアンケートで、「地域住民ともっと触れ合いたい」という意見が出ていた。他都市でイベントを行ったが、元々国際交流に意識のあるボランティアの方々は参加してくれたが、トラブルを起こしている地域の住民は誰も参加しなかった。意識のある人はますます意識が高まるが、偏見しかない人はますます偏見だけが大きくなっていく。そのような人をなくしていけるようなものがあればよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標1の(1)について。姫路市は、「姫路市人権教育及び啓発実施計画」を策定しており、人権をととても大事に考えているイメージがある。外国人に関してヘイトスピーチ禁止法も出てきているため、人権という視点で、人権の主体として外国</li> </ul>

座 長	<p>人を見ることや、それによって差別を禁止することもきちんと行っていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほどご意見があったように、本人が我慢して頑張って闘うことも素晴らしいことだが、姫路市は、周囲の人が外国人を同じ人権をもつ主体として尊重することを、明確に打ち出していきたい。</li> <li>追加のご意見がある方は事務局へメールや文書等で連絡していただきたい。いただいたご意見は、事務局と相談して次の懇話会で報告させていただく。</li> </ul>
事務局	<p>4 その他</p> <p>次回開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回の懇話会では、本日の委員の皆様のご意見を受けて事務局にて作成する次期プランの素案についてご意見をいただきたい。</li> <li>次回の開催時期は10月中旬から11月上旬を考えている。日時・会場については、改めて事務局から連絡のうえ調整させていただく。</li> <li>次回以降の会議も引き続きご協力をお願いする。</li> </ul> <p>5 閉 会 (12 : 00)</p>